

1 床に倒れている黒ずくめの男

目だし帽をかぶった、全身黒ずくめの男だ。目だし帽を外すと男性で30代ぐらいであることが分かるが、身元を証明できる物は持っていなかった。腕にワシのタトゥーが彫られている。腰にロープ、手にはドライバーが握られている。気絶しているようで、多少けがをしているものの、ロープによる減速とガラスケースがクッションになったおかげで命に別状はなさそうだ。ほほをたたいても、手で両眼をあけライトを照らしても起きる気配はない。

2 屋根

美術館の屋根は半球や凹凸が多い構造となっている。ステンドグラス部分は大きな半球のドーム状だったが丸々抜け落ちており、その縁に工具箱や散乱したゴミが落ちていた。ゴミの中には空になった薬の錠剤のフィルムも含まれている。

屋根の形状から人が隠れるのは容易で、おそらく警察が来る前から黒づくめの男は屋根の上で何時間も待機していたのだろう。工具箱の中にメモが入っており、屋根上のステンドグラスへの経路と0：00決行（同時に渡された気付け薬をのむこと）と記されている。

3 修繕室の様子

警官二人が見張る入口で、服、カバン、靴の順にボディチェックを受け部屋に入った。中はそれほど広くなく、両壁には棚が並び、ファイルが整列している。正面には大きなアームライトと観察用レンズが備え付けられた机が配置してある。【鑑定士】はきみ達に背を向け椅子に座り「う～ん、ふむふむ」と言いながらサングラスを外し手袋をはめて「虹の瞳」に顔をまじまじと近づけ鑑定を行っている。ちらっとみた彼の横顔は糸目で狐顔、とても集中しているようだ。彼に一声かけ部屋の中を調査したが、怪しいものは見つからず、きみ達は部屋を後にした。

4

【富豪】

「虹の瞳」はこの美術館に展示してもらう前に5人の人間に鑑定してもらった正真正銘の本物だ。特にこの場にいる【鑑定士】の鑑識眼は素晴らしくてね、この宝石の造形はもちろん構成成分まで熟知しているんだ！

彼と知り合って日は浅いが、宝石を見る目は本物だよ」

5【鑑定士】

「私が調べたところ、「虹の瞳」は間違いなく本物でした。部屋に入るときと出るときには警官二人にボディチェックしてもらい、私の身の潔白も証明されています。【富豪】と【美術館館長】には、よくしていただいていますよ。サングラスですか？ ふふふ、おしゃれでしょう？ 僕のトレードマークなんですよ」

6 【美術館館長】

「【富豪】とはいくつか美術品を買い取らせてもらったりしている旧知の仲だ。今回の「虹の瞳」の企画は私の提案だがレイアウトの提案は【富豪】から紹介された【鑑定士】が行った。「虹の瞳」展示の際は【警察署長】と部下の護衛の下、慎重に、何事もなく行われたよ。割れたステンドグラスの費用は高くつくがそれ以上に「怪盗を捕まえた美術館」として今後は売り込んでいくつもりだ」

7

【警察署長】

「ボディチェックは壁に手をつかせ上から、服、ズボン、かばんやポケット、靴、の順に調べるようにした！ 「虹の瞳」は2.5cmの球体……ポケットや靴底に万が一隠しても、部屋を移動する時点で分かるようにしていたのだ！ アフロヘアーの人間がいたならそいつの頭も調べただろうがな、がっはっは！」

8

CIA捜査官に【怪盗ラットテール】の情報を聞く

きみ達が美術館の外に出て指定の公園のベンチに腰掛ける。するとボロボロの服を着た白いひげの老人が杖をつき、隣に座った。きみ達は老人に分厚い封筒を渡す。「久しぶりじゃな、面白いヤマを追ってるじゃないか。実は【ラットテール】とウチの若いのが昔やり合っておってな。その時【怪盗ラットテール】は片目を、うちの若いのは右手を失ったんじゃ」と言いながら紙袋を渡してきた。中身は資料で【怪盗ラットテール】は人の心理を巧みに利用するということが分かった。きみ達が顔を上げると老人の姿はもうどこにもなかった。

9

MI6捜査官に天井から落ちてきた
黒ずくめの男について聞く

きみ達は屈強な警官たちの中にひとりだけいた紅一点、美人女性警官に声をかけられ、廊下の隅に移動する。

「今別件で【警察署長】に取り入って潜入捜査中なの、手短にいくわよ。黒ずくめの男は【町のごろつき】ね。ヤツが酒場で「すげー頭がいいヤツと組んでるんだ。ヤツの言う通りにしていればすべてうまくいく。「飲むと集中力が上がる薬」までもらったんだぜ!？」と言ってたらしいわ。あと【警察署長】が今回連れてきた部下について、私以外はまっとうな警官よ。この件で知ってる情報はこれぐらいね……これで昔の借りは返したから、じゃあね」

10

FBI捜査官に関係者の最近の動向を調べてもらう

きみ達が美術館の外に出て駐車場で待っていると一台の黒い乗用車が横につき、少しだけドアをあけた。きみ達は「ある事件」についての重要な情報を記したメモをドアの隙間から手渡すと、代わりに1枚の紙を渡され、車は、あっという間に走り去ってしまった。

【富豪】：【美術館館長】とよくこの町の高級クラブに行き金儲けの話をしているようだ。そのうち脱税を行う危険あり。

【美術館館長】：【富豪】とよくこの町の高級クラブに行き金儲けの話をしているようだ。そのうち贗作ビジネスを行う危険あり。

【鑑定士】：この町のバーで腕にワシのタトゥーが入った【町のごろつき】と話し込んでいる姿が目撃されている。夜でもサングラスをかけている。

【警察署長】：部下の美人女性警官と不倫している疑いあり。今のところ業務に支障はない。